

お知らせ



横浜子育てサポートシステム入会説明会

「子どもを預けたい人」と「子どもを預かりたい人」が会員として登録し、会員相互の信頼関係のもとに、子育ての支援を行います。



※当日は、別室での保育(無料)も行っておりますので、ご希望の方は、同時にお申込みください。
※保育お申込みの方は当日10時15分にお越しください。

日時：平成22年 3月11日(木)、4月9日(金)、
5月13日(木)、6月18日(金)、
7月16日(金)

各日 午前10時30分～正午

場所：ピアハッピー栄(栄区福祉保健活動拠点)内
申込先：栄区社会福祉協議会
申込：前日までに電話でお申込みください。

第11回 ようこそ・であい広場

ハッピーなであい ハッピーな発見
ハッピーな発見 ハッピーな輪をひろげよう

栄区福祉保健活動拠点を利用しているグループによるおまつりです。

栄区内のボランティアグループ・当事者グループ・障がい者施設等の活動PRや地域との交流を図るため開催いたします。

日時：平成22年3月6日(土)
午前10時～午後2時

会場：ピアハッピー栄(栄区福祉保健活動拠点)内

内容：バザー(リサイクル品・手作り品)
食べ物いろいろ模擬店
パソコン体験コーナー
子どもの遊びコーナー(景品もあるよ！)
福引き抽選会

主催：ようこそであい広場 実行委員会

平成22年度 さかえ ふれあい助成金説明会

さかえ ふれあい助成金は、区民同士の支えあいによるボランティア活動など、地域福祉保健に貢献する事業の支援を目的とします。

募集にあたり、説明会を次のとおり開催します。

日時：① 平成22年3月23日(火) 午後2時～
② 平成22年3月24日(水) 午前10時～
(①、②とも、同一内容です)

会場：ピアハッピー栄(栄区福祉保健活動拠点)内
団体交流室

申込先：栄区社会福祉協議会

申込：団体名・参加者氏名・電話番号・希望日を明記の上、ハガキ、FAX、電話で、3月18日(木)までにお申込みください。

※会場の都合上、各団体1名の参加をお願いします。
※助成金の申込みは、平成22年4月1日(木)から4月30日(金)です。
申込みされる場合は、なるべく説明会にご参加ください。

さかえ区社協だより

No.31

発行：社会福祉法人 横浜市栄区社会福祉協議会

〒247-0005 横浜市栄区桂町279-29ピアハッピー栄(栄区福祉保健活動拠点)内

電話 045 (894) 8521

Fax 045 (892) 8974

平成22年2月1日発行

E-MAIL : office@sakaeku-shakyo.jp URL : http://www.sakaeku-shakyo.jp 承認：栄区連第141号

第2期「栄区地域福祉保健計画」を策定しています！

あなたも わたしも みんなが主役のまちづくり

地域福祉保健計画は、地域全体の生活課題に取り組み支えあっていく仕組みづくりを目指すために、策定するものです。
第2期計画の期間は、22年度から27年度までの6年間です。



皆さんからのご意見を聞かせてください！

素案ができました

より身近な地域の課題を反映できるよう、これまで区民や福祉保健活動団体、学識経験者、関係機関の人たちと検討を重ねてきました。

素案は、区社協や区役所、区内地域ケアプラザ等で閲覧できるほか、区役所ホームページにも掲載しています。

素案へのご意見は、2月22日(月)までに郵送・FAX・メールまたは直轄、区役所福祉保健課事業企画担当へお寄せください。



ご意見
お問合せは

区役所福祉保健課事業企画担当

〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19

TEL:894-6917 FAX:895-1759

Mail:sa-fukuho@city.yokohama.jp



社会福祉協議会 ロゴマーク
社会福祉および社協の「社」を図案化し、「手をとりあって、明るくあわせな社会を建設する姿」を表現しています。

区社協募集

栄区社会福祉協議会では、「さかえ区社協だより」へ掲載する広告を募集しております。(栄区内全戸配布)
詳細は電話にてお問合せください。



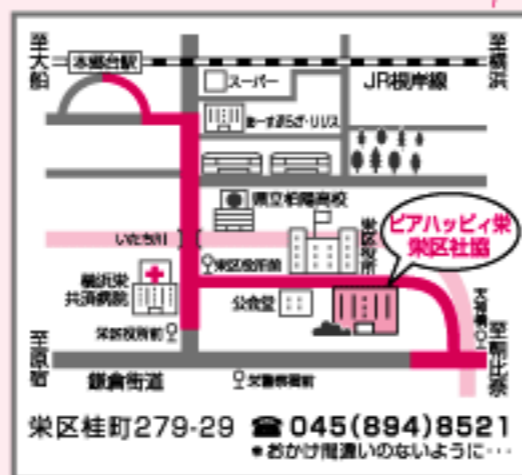
045(894)8521

本誌は、区民の皆様から寄せられた共同募金の一部を用いて発行し、自治会・町内会のご協力で全世帯にお配りしています。

COSMOS(社協57号)

【栄区社会福祉協議会広報編集委員】
豊田(小林 信也) 笠岡(鈴木 繁)
小倉(谷(田中 文志) 本郷(中央(木村知恵子)
本郷(三(田川真由美) あさの(武井 範彰)
上郷(西(平岩 正史) いでたち(二村 忠孝)
上郷(東(高橋 勝彦)

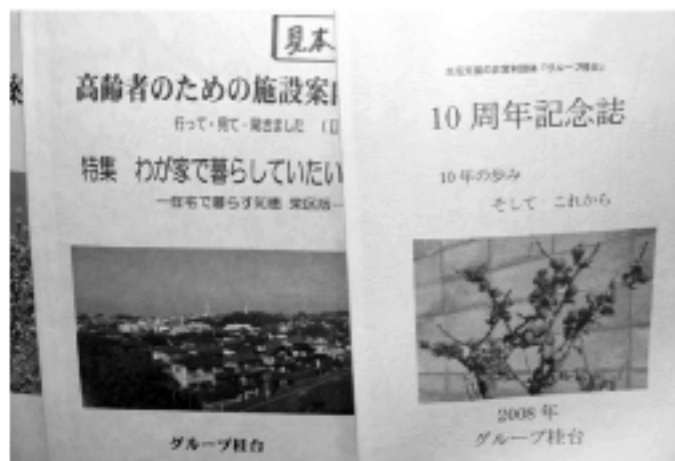
【編集後記】
地域のお手伝いを色々させて頂いて頂いているうちに、自治会・町内会の役員を毎年入れ替わらせているところが非常に多いことに気がつきました。各自治会・町内会又は個人にも色々な事情はあると思いますが、順番で回って来たからしかたなく引き受けている人も多いのでは...。怒っても、笑っても同じ一年ならば、ここで出会えた仲間と楽しくやりたいものです。「まだ五ヶ月しかたつてないよ」ではなく「もう五ヶ月も過ぎたね」と思えば、この先、短く感じられると思います。何事も心の持ちようです、前向きに日々送りたいものです。(木村)



「グループ桂台」

訪問記

さかえ
ふれあい
助成金
配分団体



「高齢者のための施設案内」と「10周年記念誌」

今回は湘南桂台で誕生し、10周年記念誌を発行した「グループ桂台」の取材を計画し、グランポアにある自治会館の事務所で代表の中村涼子さんにこやかなお出迎えを受け、活動内容をご紹介いただきました。

「グループ桂台」は生活支援のための有償ボランティア活動を行っている非営利団体です。高齢化などのために日常生活に支障が生じたとき、地域に住むもの同士で、気軽に助け合う会員制住民参加型の在宅福祉サービスを行うグループで、1997年（平成9年）に設立したとのこと。紹介パンフレットは手書のイラスト入りで、入会手続と利用料金など、わかりやすく作られています。

た。生い立ちは、地域に生じた道路問題に関心を持った女性たちの会合で最近イトーヨーカ堂に男性の姿が多くなって来たという話題から発展し、「湘南桂台の高齢化社会を考える会」と名付け、アンケート調査を行いました。その結果から、この地域に住み続けたいと答えた人が8割あることが判明しました。高齢社会へ向けての仕組と組織作りを調査研究したことが発足の原点になりました。お話の中で自分達の問題は自分達で考え解決する、自分達で「湘南桂台の町を住みやすくする」という言葉を繰り返し述べておられました。

設立の2か月後から広報誌「グループ桂台通信」を発行し、自治会活動を通じて毎月班回覧され、会員以外の方にも福祉情報を伝える役割を担ってまいりました。担当者はパソコン操作に習熟し、福祉のさまざまな情報に接する機会も多くなり、ヘルパー資格の取得や外部研修を受けて会員のスキルアップにもつながっているそうです。

急速な高齢化が進み、老後を誰に、どのように託すか？多くの悩みを目のあたりにして、数ある高齢者福祉の中から自分達の納得のいくものを発掘するためのガイドラインを作り、訪問調査したデータをまとめ、冊子「高齢者のための施設案内（Ⅰ、Ⅱ）」に整理し発行したところタイムリーな企画として大変好評をいただくと共に、活動に参加した会員の意識アップにつながったとのこと。

設立当初は高齢者支援（家事支援、草取りなど）でしたが、そのうちに障がいのある方たちのグループホームでの食事作りが加わり、障がい児・者のいる家庭の支援（掃除、食事作り）や通院介助、通院付き添いなど、幅広くなりました。登録会員数も300名を超え、年間サービス提供時間も約3000時間と当初の予測を大幅に超える活動になったそうです。

今後の展望について伺うと、これまでの10年は会員の協力のおかげで進展してきたが、協力会員の高齢化や、地域の人口構成から見ると、これまでのような活動は難しくなるのではないかと協力会員予備軍とも云うべき年代の人口が少ないことを心配されていました。中村さんを中心としたスタッフの団結と知恵で、自治会・シニアクラブ・地域ケアプラザなどと連携してさらに発展することを期待して現場を後にしました。

（高橋）

「かみしばいアンサンブルよこはま」

訪問記

さかえ
ふれあい
助成金
配分団体

「紙しばい」何と懐かしい響きだろうか。今回、飯島コミュニティハウスで「かみしばい アンサンブルよこはま」の「親子で楽しむ紙芝居&リズムあそび」未就園児と保護者が対象の紙芝居の公演があるので取材に伺った。2回連続の公演で1回目は50名の参加とすごかったが、今回はインフルエンザ流行の影響もあり、20名の参加者であった。

「いないいないばあで どんなかお？」で早速手作りの紙芝居が始まった。

語りに合わせて生演奏を担当する原和子さんと、制作、語りと歌を受け持っている大泉ひろ子さんの呼吸は実に見事で、幼児ひとり一人を注意深く見守りながら笑顔をやさしく、時には母親のように歌っているのが、あっという間に幼児の心を引きつけてしまったのには驚かされた。

「お花がわらった」では館長の下井田さん、スタッフの内山さんも急遽借り出され、一緒になって演技のお手伝いである。



「お花がわらった」

「うが いが いい」では紙芝居の絵に合わせて、幼児と若いお母さん方にうがいの真似を一緒にしてもらい、手を洗ってから食事をするを教えたりしている。

「まっかな あき」では、室内の電気を消し、ブラックパネルにもみじや、夕焼けの中に浮かぶ子供の影絵など幻想的に写し出す演出も用意されており、あっという間の45分間であった。お母さん方も一緒に余韻に浸っているかのようで、しばらくは席を立たなかった程である。

「かみしばい アンサンブル よこはま」は結成12年目ということだが、これまでにカンボジア公演やブラジル日本移民100周年記念祭に依頼され出演された他、横浜開港150周年イベントにも出演するなど、幼稚園から公共施設まで各地で活発に活動されている筋金入りの二人なのだ。

手づくりの紙芝居は既に50を超えるが、その内13作品にオリジナル音楽をつけている。今日は、世界にたった一つしかない作品を観せて頂いたことになる。

このようなグループが栄区内に存在し、有意義な活動を地道に続けているのを目の当たりにした時、何だか嬉しさがこみあげて来たのは何故だろうか？

何よりも笑顔が人に与える安心感や親密感、その素晴らしい素直さを改めて教えて頂いた貴重な取材であった。

（鈴木・武井）



「まっかな あき」

ピアハッピー

ながねま しげお
長沼 重雄 さん

「ピア」は仲間の意味。利用者が気軽に交流を回りながら仲間をつくれる場所となり、その仲間たちが幸せ（ハッピー）になれるよう名づけました。

書画は「書道サークルきらら」にご協力いただきました。



そらちゃん

ふるうち やよい
古内 野生 さん

ボランティア情報誌「ぞら」から考えて、空へはばたく鳥（繁栄と幸せを運ぶコウノトリ）をイメージしました。



長沼さん(左)と古内さん

栄区福祉保健活動拠点

愛蔵&マスコットキャラクター
作者を紹介します！